

## 編集後記

『語文と教育』第三十五号をお届けいたします。

本号は、国語科教育四編、国文学一編、国語学（日本語学）二編の計七編構成となりました。各分野からの力の込められたご投稿に感謝申し上げます。

いつ終わるとも知れぬ「コロナ時代」における大学というもののあり方は、ここ一年ほどの間に多くの場面で変容を迫られてきました。「学び」「学問」「キャンパス」「人と人とのふれあい」、そういったあたりまえと思っていたものはあたりまえではなかったことに気付かされたのであり、それらは、もし「コロナ時代」が過去となったとしても、同じものとして回帰することなどありえないということには、やはり自覚的であらねばならないでしょう。本学の国語教育学会も、去年に引き続き、今年も中止を余儀なくされました。しかし、これを好機として、学会をよ

り開かれた場として再編することも考えていく必要があるように思います。すなわち、オンラインと対面とを平行するような実施方法の模索ということ。なにはともあれ、「学問」の歩みをとめることなく、冊子体としての『語文と教育』を、皆様にお届けすることができまことを、うれしく思っております。

さて、本年三月には、修士課程から専門職学位課程へと改組が行われてから、初めての修了生を送り出すことが出来ました。今後も、様々な教育課題に対応できる教員の養成に務めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、この一年も多くの大学・機関・研究会等より本学会宛に紀要・会誌等の研究資料をご寄贈いただきました。本学の書架に大切に保管し、教育・研究に活用させていただきます。報告致します。謹んで御礼申し上げます。（黒田記）

## 語文と教育 第三十五号

令和三年九月三十日印刷  
令和三年九月三十日発行

（非売品）

編集人 鳴門教育大学国語教育学会

発行人 鳴門市鳴門町高島字中島七四八

（〒七七二一八五〇二）

鳴門教育大学大学院

国語科教育実践分野内

鳴門教育大学国語教育学会

会長 幾田 伸司

印刷所 協徳島印刷センター